

**ロジスティクス環境会議**  
**第11回源流管理による環境改善委員会 議事録**

I. 日 時：2005年5月27日（金） 10：00～12：00

II. 場 所：東京・港区 芝パークホテル 本館2F 桜

III. 出席者：21名

IV. 議 案：

- 1) 2005年度の活動について
- 2) その他

V. 開 会

定刻、小西委員長により開会が宣され、以下のような議事が行われた。

VI. 議事の経過

- 1) 2005年度の活動について

事務局より、資料1に基づき、委員会の活動方針が確認された後、活動方針（計画）に対して基本的には成果物がまとめられている旨の説明が行われた。また、2005年度については、荷主企業の部門間の調整を行うためのツールを作成し、マニュアルに加えていきたい旨の提案が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

**【主な意見交換の内容】**

委 員：発荷主の部門間の調整ということと、着荷主の方でも、現場であるセンターや店舗と本社との間で調整することによって、改善できる部分もあるのではないかと。

委 員：物流企業である輸送事業者として、どのように観点から意見を言うべきなのか、整理することが難しい。

事務局：発荷主、着荷主に対して、出荷・入荷タイミングなどを変えることによって、コストや二酸化炭素、包装資材を減量化することができるなどのような観点から意見をいただきたい。

委 員：輸送事業についても、荷主企業に依頼する部分と、自ら積載効率あげるため方策を検討する必要があるのではないかと。

委 員：トラックの待ち時間に発生するアイドリングは、荷主企業と物流企業である輸送事業者双方にとってデメリットである。ツールの中に、例えば、運転手の方にも協力いただき、アイドリング時間を定量的に把握し、関係者が現状を共有することも必要ではないかと。

委 員：経営トップ層にも、ロジスティクス・物流領域の環境対応策としてモーダルシフト以外の視点ももってもらいが必要があり、そのような啓発にも使えるツールを作成する必要があるのではないかと。

委 員：物流に関する取引条件など、企業間の問題もかなり影響を受けるのではないかと。その部分はこの委員会で検討するのか。

事務局：企業間の問題については、省資源ロジスティクス推進委員会のテーマとしている。  
2005年度の取り組みとして、発荷主企業・着荷主企業・物流企業間で環境負荷とコストを低減するためには、どのような点に相互が考慮し、実践する必要があるのか、仮説を立てた上で、メンバー企業等の協力をいただき、具体的な製品をモデルとして、具体策を協議し、改善の方向性や方策をまとめる予定である。

委員：2004年度は網羅性を重視したといえる。2005年度は社内で具体的なアクションを起こすためのツールを作成する必要がある。時間的な制約もあるため、どの部分を掘り下げていくべきなのか、『Ver1』の評価をすると同時に掘り下げるポイントを委員メンバーからアンケートなど聞くべきではないか。

以上のような意見交換の後、次のように委員会を進めていくことが確認された。

#### ① 2005年のアウトプット

荷主企業の部門間調整を推進するためのツールとして『ロジスティクス源流管理マニュアル Ver. 2』を作成する。

ただし、輸配送や保管等の合理化・効率化によって改善していく視点から、物流企業からも積極的に意見をいただく。

また、可能な限り定量的なデータを入れていく。データを入れることが難しい場合は、空欄として、そのデータが必要な旨を訴えていく。

#### ② アウトプット作成の進め方

- ・2004年度作成した『Ver. 1』の評価と、2005年度『Ver. 2』の重点を置くべき部分を明らかにするため、委員メンバーにアンケートを行う。

- ・基本的には、2004年度同様、「包装資材」「輸配送」「保管・荷役」の視点から検討を行うため、上記3つの分科会を構成し、具体的な検討を行う。

#### ③その他

『Ver. 1』をより見やすいものにするため、図表やイラストなど、見本となる材料を各委員で確認いただき、その材料を事務局にご提示いただく。

#### 2) その他

事務局より、改正省エネ法の状況、グリーンパートナーシップ等の周辺状況の報告が行われた。環境会議メンバーには、適宜メール等を活用して、メンバーに対して情報発信していくことが確認された。

#### 3) 次回、第12回委員会スケジュールについて

日時：2005年6月22日（水）15：00－17：00

会場：芝パークホテル 本館2F 「桜」

## VII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以上